

通告5番目、5番、奥田富代子議員、発言席から一問一答方式で質問願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 5番、奥田富代子です。議長の許可を得ましたので、通告に従い一問一答方式で3点質問いたします。

1番目は、婚姻届と出生届について、2番目は、岩出市巡回バスについて、3番目は、防災についてお伺いいたします。

まず1番目、婚姻届と出生届について。

全国的に高齢化が進む中、和歌山県が公表している県内における高齢化の状況によると、岩出市は65歳以上の高齢人口比率が低い市町村の1位となっております。すなわち県の中では、若い人の比率が高い市であると言えます。しかし、大学進学や就職を機に、岩出市を離れる若者も数多くいます。

近郊の市町の人からは、岩出市はスーパーマーケットや飲食店が多くて暮らしやすいまちですねとよく言われます。また、岩出議会広報では、岩出市内の小中学生に、岩出市への思いを募集し、掲載していますが、そこにも岩出市は自然が豊かであったり、お店が多く、暮らしやすいという言葉がたびたび出ております。

このような岩出市に愛着を持ち、一旦市外へ出た若者がUターンして戻ってきたり、また他県、他市の若者も、岩出市に魅力を感じ移住してきたり、所帯を持ち、定住してくれることが望まれます。

まず初めに、岩出市では、過去3年間に何組の婚姻届と出生届が出されているのかをお聞きいたします。

2点目として、市では、市制施行15周年を記念して、オリジナル婚姻届が作成されました。新婚夫婦のスタートに記念になって、大変よいサービスだと思います。しかし、婚姻届を提出すると手元には残らないので、結婚記念証を作成し、カップルにプレゼントしてはどうかと考えます。結婚記念証を作成する考えはについて伺います。

3点目として、婚姻届や出生届を提出するために市庁舎を訪れた方々が届けを出した記念に撮影できるコーナー、いわゆるフォトスポットを設けてはどうかと考えます。新しい家族の誕生や結婚に花を添え、市への愛着心アップを図るとともに、本市PRのツールとしても生かせるのではないかと考えます。記念撮影できるコーナー、フォトスポットを設ける考えについてお伺いいたします。

○福山議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○中場総務部長 奥田議員ご質問の1番目、婚姻届と出生届についての1点目、過去3年間の婚姻届と出生届の数についてです。

当市に届出された婚姻件数は、平成30年度、234件、令和元年度、249件、令和2年度、214件、出生件数は、平成30年度、388件、令和元年度、447件、令和2年度、416件です。

2点目の市オリジナルの結婚記念証の作成予定は、現時点ではありませんが、今年度、市民課において市制施行15周年を記念し、岩出市オリジナル婚姻届を作成いたしました。お二人の記念日をさらに特別なものにしていただけるよう、令和3年度限定のデザインとなっております。

3点目の婚姻届や出生届を出した記念に撮影できるコーナーの設置についてです。現在、正面玄関前ロビー周辺を含めた庁舎1階部分の改修設計案を作成中でございます。この中で婚姻の届出等で来庁された方に記念撮影していただけるメモリアルフォトスポットを設置する予定でございます。

○福山議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 記念撮影のコーナー、メモリアルフォトスポットを設置する予定とのご答弁をいただきました。婚姻届や出生届に訪れた方々のみならず、他県、他市から訪れた方々にとってもメモリアルフォトスポットで記念撮影をすれば、岩出市での記念写真として思い出に残ってくれると期待いたします。

先ほどのご答弁で、岩出市オリジナル婚姻届は、令和3年度限定のデザインとなっているとのことでしたが、評判がよければ、今後も引き続き岩出市オリジナル婚姻届を作成するという考えについてお伺いいたします。

○福山議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○中場総務部長 今回の婚姻届につきましては、市制施行15周年を記念しているものでございますが、今後も節目節目で、また作成していきたいと考えてございます。

そして、オリジナル婚姻届につきましては、2枚お渡ししておりますので、1枚を提出用、1枚を記念用としていただきたいと思いますと考えてございます。

○福山議長 再々質問を許します。

(なし)

○福山議長 これで、奥田富代子議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問を願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 次に、岩出市巡回バスについてお伺いいたします。

令和2年10月、岩出市巡回バスの車両が新しくなりました。市のイメージキャラクター「そうへいちゃん」の大きなイラストがデザインされていて、色もブルー、グリーン、レッドと、町なかを走っていると、ひととき目を引きます。このすてきな岩出市巡回バスが、市民の皆様にも親しまれ、大いに利用されることを願います。

そこで伺いいたします。1点目、過去3年間の巡回バス利用者の推移について伺います。

市では、令和2年12月15日から令和3年2月1日の期間に、岩出市巡回バスに関するアンケートを実施しておられます。そこで2点目、巡回バスに関するアンケート調査の対象者と回答数について伺いいたします。

3点目として、アンケート調査の設問で、満足度の高い事項と低い事項について伺います。

4点目として、調査分析を今後どのように生かすのかをお伺いいたします。

○福山議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○中場総務部長 奥田議員ご質問の2番目、岩出市巡回バスについての1点目、過去3年間の巡回バス利用者の推移については、平成30年度、3万7,120人、令和元年度、3万6,957人、令和2年度、2万6,183人となっており、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、前年度と比べて約7割程度の利用数となっています。

2点目、巡回バスのアンケート調査については、利用者の満足度及び今後の運行改善に役立つ資料や情報として活用するため、昨年12月15日から今年2月1日にかけて実施しました。アンケート調査の周知や協力依頼については、市広報紙や市ウェブサイトにより広報し、アンケート用紙及び回収ボックスを巡回バスの車内や公民館をはじめとする公共施設に設置して回答を募るとともに、老人クラブ連合会を通じて会員へのアンケート用紙の配布を行った結果、回答数は304通でした。

3点目、満足度についてです。運賃、バス停の位置、バス停の間隔、時刻表の見やすさ、分かりやすさ、運行の正確さ、乗務員の対応、車内放送、鉄道や他のバス路線との乗り継ぎの8項目について、5段階評価による満足度調査を行ったところ、満足度の高かった項目は、運賃と乗務員の対応で、満足度の低かった項目は、鉄道や他のバス路線との乗り継ぎとバス停の位置でした。

4点目、調査分析の今後の活用についてです。アンケートの集計結果からも、巡

回バスが高齢者をはじめとする交通弱者の方々にとって買物や通院など、地域内の日常生活の移動に必要なものであり、事業の継続は不可欠であります。また、今回、岩出市に住所を有する満65歳以上の方等に配布している巡回バスが無料で乗れるあいあいカードの認知度が低いことが分かりました。あいあいカードの知名度を上げれば、利用回数が増えるとの回答が多数あったことから、今後は同カードの普及のため、周知等を図ってまいります。

○福山議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 アンケートの集計結果から、巡回バスが無料で乗れるあいあいカードの認知度が低いことが分かったとのこと。認知度を高めるために、65歳になったら、あいあいカードのPRを市から通知する、何か同封するとか、免許証返納に警察署を訪れた65歳以上の方に、今後の交通手段として巡回バスがあること、そして、その巡回バスに無料で乗車できるあいあいカードがあるということを知らせるチラシを警察の窓口においておくなども認知度を高める周知の仕方であると考えますが、市の見解をお伺いいたします。

もう1点、市民の方から、自分が利用している病院に巡回バスで行きたいが、下車する停留所が分からないとの声が聞かれました。2019年に発行された岩出市暮らしの便利帳には、岩出市の医療機関が広告を載せております。病院名、住所、電話番号、診療科目、診察時間などが書かれております。ここに最寄りのバス停名を書き加えていただいたら、行きたい病院はどこで下車をすればよいか分かります。また、あるいは岩出市暮らしの便利帳の生活ガイドのコーナーに、岩出市的那賀医師会、岩出市の和歌山県歯科医師会のページがあるので、そちらに掲載することも考えられます。岩出市暮らしの便利帳を改訂する際には、最寄りのバス停名を記載することはできないかということをお伺いしたいと思います。

○福山議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○中場総務部長 再質問についてお答えします。

アンケート結果より、あいあいカードの認知度を高める必要があることから、今後、議員から今ご提案のあった方法も含め、様々な方法により周知を図ってまいります。

岩出市暮らしの便利帳の広告欄につきましては、広告主が宣伝費をかけて掲載しているもので、内容は広告主の裁量によるものとなっております。また、便利帳の

改訂も未定であることから、広告欄に最寄りのバス停を表示することは難しいものと考えます。

○福山議長 再々質問を許します。

(なし)

○福山議長 これで、奥田富代子議員の2番目の質問を終わります。

引き続きまして、3番目の質問を願います。

奥田富代子議員。

○奥田議員 続きまして、防災について伺います。

近年、毎年、豪雨災害や土砂災害が国内のどこかで発生しています。平成29年の台風21号では、本市においても甚大な被害が発生しました。長時間にわたる停電や強風に吹かれ屋根瓦が飛んだり、樹木が倒れるなど、かつて経験したことがないような大型台風が猛威を振るい、大きな爪跡を残しました。

災害での被害を最小限に抑えるためには、日常的に災害へ備えることが重要です。そのためにも、まずは自分や家族の身は自身で守る自助、近所や地域の方々と助け合う共助を平常時から実施し、大規模災害に備えることが重要です。

阪神・淡路大震災のときには、震源にほど近い淡路島北淡町では震度7を記録し、多くの方が倒壊家屋の下に生き埋めとなりました。しかしながら、北淡町では、地域の住人同士が日常の暮らしを通じてお互いのことを熟知していたため、近隣住民で組織された消防団は、瓦礫の下で埋もれている人の位置を正確に推定し、速やかな救助によって、約300名もの人命を救ったと聞いております。これは平常時のご近所付き合いの重要性を再認識する事例であると考えます。

そこで1点目、本市でも各地域で自主防災会が結成されておりますが、市には幾つの自主防災会があるのかをお聞きいたします。

自主防災会は、いざというとき、迅速かつ効果的に防災活動を行えることが重要になってきます。そのためには、日頃から大きな災害に備えて、防災知識の普及や啓発、防災訓練を行うことが大切です。

そこで2点目として、自主防災会はどのような取組、活動をしているのかをお聞きします。

次に、市では、2019年に防災マニュアル改訂版を市民に配布されました。岩出市避難所一覧から始まり、ため池ハザードマップ、紀の川水系洪水浸水想定区域図、地震に備える震度予測図、土砂災害に備える、風水害に備える、災害情報を知る、家庭・地域で備える等、丁寧で分かりやすく、微に入り細に入り書かれております。

ところで、地域によっては、ため池ハザードマップが重要であったり、別の地域では河川の氾濫による洪水被害が心配されるなど、地域によって気をつけなければならない注意点が違います。ため池の水位がここまで来たら避難するとか、河川の水位がここまで来たら避難するという、いわゆる避難スイッチを地域ごとに決めることが的確に命を守ることに繋がります。

また、台風が近づく数日前から、いつ誰が何をするのかをあらかじめ決めて実行していく地区独自のタイムラインを作成しておくことが、命を守り、被害を最小限に抑えるのに有効です。台風が来てから慌てることなく、前もって高齢者は避難してもらおうなど、その地域独自の防災計画が重要と考えます。

3点目として、地域ごとの防災マップづくりや住民主体の防災計画づくりを支援する考えについてお聞きいたします。

○福山議長 ただいまの3番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○中場総務部長 奥田議員ご質問の3番目、防災についての1点目、自主防災組織については、今年6月23日現在、自治会等を母体とする65団体がございます。

2点目の自主防災組織については、自分や家族の命は自分で守る自助、自分たちの地域は自分たちで守る共助において、重要な役割を担うこととなり、各組織において、防災倉庫や発電機などの資機材の配備をはじめとして、災害に備えた避難訓練や炊き出し訓練、また、講師を迎えての防災に関する講話や応急救護訓練などを実施していただいております。

3点目の地域ごとの防災マップづくりについて、市では岩出市防災マニュアルを作成し、紀の川の浸水想定区域や土砂災害警戒区域、各種防災に関する情報を掲載し、全世帯に配布しております。

住民主体の防災計画づくりの支援としては、各自主防災組織や地域において独自の防災マップや防災計画を作成する場合、作成に当たっての具体的方法などの相談に応じています。

○福山議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 自主防災組織は65団体あり、資機材の配備や災害に備えた避難訓練や炊き出しの訓練、講師を迎えて防災に関する講話や応急救護訓練などを実施しているとのことですが、中には自主防災組織を結成したが、何から始めたらよいのか、防災の専門家を招いて話をしてもらいたいが、どこに連絡すればよいのか分からない

といった声を聞くこともあります。これから活動を始めようとする組織の助けになる自主防災活動マニュアルや先進事例の紹介があれば、自主防災活動の一步が踏み出しやすいと考えますが、いかがでしょうか。

あと1点、台風で屋根瓦が飛び、応急処置にブルーシートを購入しようとしたが、ホームセンターは売り切れ状態で、ブルーシートが入手できずに困った。今後は、いざというときのために、自主防災会でブルーシートを備蓄しようと考えているといった声も聞きます。自主防災会でブルーシートを購入するという場合の補助金について、そのようなこともできるのかということをお聞きいたします。

○福山議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○中場総務部長 奥田議員の再質問についてお答えします。

市では、自主防災組織の活動を支援するため、自主防災組織独自の訓練などへの活動補助や防災士資格取得への補助、防災に関する資機材購入補助を行っております。また、先ほどお話にありました活動につきましては、危機管理室の職員が講師をするなどし、活動方法の助言もいたします。

自主防災組織に対する資機材購入補助については、自治会等を新規に設立してから3年以内に自主防災組織を結成された団体及び当該補助を受けてから10年を経過した団体を対象としており、いずれの場合にもブルーシートは補助の対象としております。

○福山議長 再々質問を許します。

(なし)

○福山議長 これで、奥田富代子議員の3番目の質問を終わります。

以上で、奥田富代子議員の一般質問を終わります。

しばらく休憩いたします。

午後2時40分から再開します。

休憩 (14時21分)

再開 (14時38分)

○福山議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。